

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



CONTENTS

- | | | |
|------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| ■院長挨拶① | ■第4回「南丹カップ」を開催しました⑤ | ■検診マンモグラフィ
撮影認定診療放射線技師⑨ |
| ■近畿管区広域緊急援助隊・
京都DMAT合同訓練② | ■公立南丹看護専門学校⑥ | ■糖尿病教室予定⑨ |
| ■医療安全相互ラウンド② | ■数字で見る
京都中部総合医療センター⑦ | ■看護師1年目を終えて⑩ |
| ■赴任医師のご挨拶③ | ■診療科紹介 呼吸器外科⑧ | ■当院の救急医療体制⑩ |

地域医療支援病院 臨床研修指定病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院(地域災害医療センター)
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都市南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510代 FAX 0771-42-2096
<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2020.4
Vol.46
春号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
2. 地域医療支援病院として地域の医療、介護や福祉等との連携を推進します。
3. 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
4. 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
5. チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
6. 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

院長挨拶

桜花に願いを込めて

院長 辰巳 哲也



気品ある梅の香が漂う季節が過ぎ、今年もまた桜の花が満開に咲き誇る春が訪れました。爽やかな季節となりましたが、令和元年12月以降、新型コロナウイルスによる感染症（COVID-19）は世界規模で拡大しました。感染者数は令和2年3月には11万8,000人に達し、4,000人以上の方が亡くなりました。ウイルス感染は南極を除く全大陸で確認され、3月11日にはWHOから「新型コロナウイルスのパンデミック宣言」が発表されました。日本でも感染者数は3月に入り1,300人を超え、感染の流行を終息させるため、全国で多くのイベントの中止や、休校措置や卒業式の自粛などがとられ、春の選抜高校野球も中止となりました。当初は感染経路、潜伏期間などの情報が少なく、日々更新される情報から病院としての対応に戸惑いもありました。高齢者や基礎疾患の保有により肺炎などによる致死率は増加するため、厚生労働省や関連学会からの最新情報に基づきながら、第二種感染症指定医療機関として発症者には適切に対応し、地域住民の皆様の生命健康をお守りしたいと願っています。

さて、今年度は診療報酬の改定が行われましたが、その基本方針の最重点課題に「医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進」が挙げられました。「2040年問題」を見据えて、超高齢社会と医療従事者が不足する環境への対応が求められています。今回の改定では「救急医療に係わる病院勤務医の働き方改革への特別的な対応」に代表されるような新設の加算要件もありますが、実質的にはマイナス改定であり、人件費を含めて病院経営はますます困難な時代になっていくと予想されます。京都府においても医療圏ごとの医師不足や診療科の偏在が解消されない現状と専門医シーリング（採用数上限）制度の影響が懸念されます。業務移管や共同化を駆使しても補いきれない労務環境に配慮しながらも、医療崩壊を来たさないような仕組み作りを構築していきたいと思えます。

4月からは57人の新しい仲間を迎えました。診療部門では長年に渡り小児科診療と感染症対策を担ってきていただいた伊藤先生が転勤となり、木原先生が小児科部長として赴任されます。腎臓内科、脳神経内科、消化器外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、眼科は一部メンバーが変わり、循環器内科、消化器内科はスタッフが増え、診療が一層充実することと思います。医師以外にも4月から勤務いただけるすべての職員の皆様には心からの歓迎と今後の活躍を期待しています。

京都中部総合医療センターは地域医療支援病院としての責任と自覚を持ち、最適な医療を住民の皆様に提供するため、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆様の御協力と御支援を賜りますようどうか宜しくお願い致します。

「花見にと 群れつつ人の 来るのみぞ あたら桜の 咎にはありける」世阿弥の能「西行桜」にも出てくる西行法師の歌です。1日も早く新型コロナウイルスによる感染症が終息し、花見の客が大勢集まれるような安心した生活を取り戻したいものです。今年も皆さまの春がさわやかで心暖かなものでありますようにお祈りしております。

近畿管区広域緊急援助隊・京都DMAT合同訓練

日本 DMAT 隊員 いいたか だいすけ 飯高 大介

こんにちは。外科の飯高と申します。本業は大腸を始めとする腹部の手術をしていますが、病院においては手術や、術後管理以外に様々な任務を拝命しており、その一つがDMAT活動です。DMATとは聞き慣れない言葉かもしれませんが。災害派遣医療チームのことで、救急医療もののドラマや映画などでは度々登場するあの隊員たちです。最近では大規模自然災害のみならず、秋葉原通り魔事件や中央自動車道笹子トンネル天井板落下などの事件、事故の際にも出動しています。また新型コロナウイルス感染症に関連して厚生労働省より出動要請もありました。

技能維持や実働に向けての訓練や研修も度々行われており、令和2年1月15日その一つである訓練に参加してきました。場所はSTIHLの森京都（南丹市日吉町）で警察、消防、自衛隊を含む13時から22時過ぎまでの大規模な訓練でした。想定は南丹市付近の殿田、神吉、越畑断層を震源とするマグニチュード7.2の地震が発生し、南丹市の山間部を中心に多数の家屋が倒壊しているほかに、道路の寸断、土砂崩れなど甚大な被害が発生したというものでした。当日は小雨に加えて時折本格的な雨が降るという実践に適した訓練日和でした。

当院からは医師2名、看護師3名、業務調整員2名が参加しました。かなり気温も下がっていましたので自身も寒かったですが、傷病者役の人も本当に体調が悪くなるのではないかとというぐらい震えておられたのが印象的でした。主にトリアージや災害現場から医療機関に向けての搬送など、実際に即した有意義な訓練ができたものと思います。災害はできれば発生しない方がいいですが、必ず訪れるであろう大規模災害に備えて、地域災害拠点病院のスタッフとしてこれからも活動していきたいと考えております。



トリアージ訓練



訓練前のミーティング

医療安全相互ラウンド

医療安全管理室長 くわさこ なおこ 桑迫 直子

医療安全の質の向上を目指す目的で、医療安全対策の現状について他病院の医療安全チームと合同で院内の各部署を巡視し、意見交換や評価を行う医療安全相互ラウンドを行っています。令和2年1月21日に市立福知山市民病院の医療安全チーム（医師、看護師、事務職）が当院に来られ、第二病棟4階東地域包括ケア病棟、第二病棟3階西病棟、腎センター、薬剤部、救急室をラウンドしていただきました。



各部署の担当者が当院の現状を説明した後、転倒・転落防止対策や薬剤・製剤管理対策などについて意見交換を行い当院の医療安全対策の評価をしていただきました。

医療安全相互ラウンドは他施設の医療安全チームと情報共有できる有意義な機会であり、今後も地域の病院間で相互ラウンドを行い、病院の医療安全の質の向上を図ってきたいと思います。

赴任医師のご挨拶

腎臓内科

医師 ^{いけだ ましろう} 池田 葵尚 (平成22年卒)

4年前まで公立南丹病院腎臓内科でお世話になり、昨年度まで京都府立医科大学附属病院で大学院生として基礎研究と臨床業務に携わって参りました。4年ぶりに医師としての基礎作りをさせていただいた京都中部総合医療センターに戻ってこれることを大変嬉しく思っています。腎センターを盛り上げていけるように誠心誠意、努力して参ります。



医師 ^{せの まさふみ} 瀬野 真文 (平成25年卒)

昨年度までの京都第二赤十字病院での勤務を経て2年ぶりに京都中部総合医療センターに赴任させていただくこととなりました。また働かせていただけることを大変嬉しく思います。丁寧でわかりやすい診療を心がけ、地域の皆様のお役に立てるよう頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



医師 ^{しんぐう やすき} 新宮 靖樹 (平成28年卒)

昨年度まで京都山城総合医療センターに勤務しておりました。丁寧な診療を心掛け、地域の皆様のお役に立てるよう、患者さんに寄り添い診療してまいりたいと思います。精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



脳神経内科

副部長 ^{いつかけ まさひろ} 五影 昌弘 (平成17年卒)

京都市内や大阪で長らく勤務した後、昨年度は丹後医療圏にある京都府立医科大学附属北部医療センターにて地域医療に携わりました。地域性や後方支援病院の数によっても医療の方向性がかわる事を実感しました。南丹医療圏でどれだけお役に立てるのか奮闘してみようと思います。急性期治療を必要とする脳梗塞の他、パーキンソン病やアルツハイマー病などの変性疾患にも力を入れたいと思います。宜しく願います。



循環器内科

医師 ^{おおた いっせい} 大田 一青 (平成30年卒)

卒後3年目でまだまだ駆け出しです。何事にも興味があり、たくさんのご経験させていただければと存じます。また食べること、身体を動かすことも大好きです。ご迷惑をおかけしてしまう場面が多々あるかもしれませんが、誠心誠意働かせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



消化器内科

医師 ^{かわらきき もえ} 河原崎 萌 (平成30年卒)

京都第一赤十字病院、京都府立医科大学附属病院での初期研修を修了し、今年度から当院にて消化器内科医として勤務することとなりました。不慣れなことも多く、至らぬ点もあるとは思いますが、丁寧な診療を心掛け、少しでも南丹医療圏の地域の皆様のお役に立てるよう日々精進してまいります。よろしくお願い申し上げます。



外科

医師 ^{あだち ゆうき} 足立 雄城 (平成30年卒)

私は京都府北部出身で、京都府立医科大学附属北部医療センター、京都府立医科大学附属病院で研修医として勤務していました。今年度は外科医として1年目となります。まだまだ知識も技術も未熟でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでも地域医療に貢献出来るよう頑張らせていただきます。何卒よろしくお願い致します。



整形外科

医師 ^{ひらた そうし} 平田 壮史 (平成28年卒)

初期研修を済生会滋賀県病院で行い、その後前期専攻医として京都府立医科大学附属病院で勤務していました。京都中部総合医療センターはスタッフ間の仲が良く、質の高い医療を提供されていると聞いており、自分が少しでも早く貢献できるようになりたいと考えています。まだまだ医師として未熟であり、たくさんのご迷惑をおかけすることも多いと思われませんが、精一杯頑張っていきますのでどうぞよろしくお願い致します。



小児科

部長 ^{きはら あきお} 木原 明生 (平成3年卒)

2020年4月から京都中部総合医療センターで勤務させていただくことになりました。地域の中核病院の新たな一員として、身の引き締まる思いです。子どもたちの健康と成長に手を尽くして貢献することが小児科医の使命であり、喜びと考えています。私はアレルギー疾患の専門医でもありますので、気管支喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギーでお困りの患者さんの支援もさせていただくつもりです。どうか、よろしくお願い致します。



医員 ^{うだ だいすけ} 宇田 大祐 (平成29年卒)

この度、当院にて小児科専攻医として勤務させていただくこととなりました。苦しむ子供たちを少しでも笑顔にできるよう、そして保護者の方の不安を少しでも取り除くことができるよう、一生懸命努力して参りたいと存じます。まだまだ未熟であり、多々ご迷惑をおかけすることと思いますが、何卒よろしくお願い致します。



医員 ^{ふじた なおえ} 藤田 尚江 (平成30年卒)

市立福知山市民病院、京都府立医科大学附属病院で初期研修を終え、小児科医としては1年目となります。まだまだ未熟者ですが、地域のお子さんたちの健康のために精一杯努力していこうと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



産婦人科

医長 ^{やまもと たくろう} 山本 拓郎 (平成20年卒)

京都府立医科大学を卒業後、初期研修医を経て同大学の産婦人科に所属し、大学院に進学しました。大学院卒業後は京都第一赤十字病院で主に周産期および腹腔鏡手術の研究生活をのち大学に戻り周産期および婦人科がんを専門に働いてまいりました。患者さん目線の分かりやすい診療を心掛け、少しでも地域の皆様のお役に立てるよう日々精進してまいりたいと思います。よろしくお願い致します。



泌尿器科

医員 ^{おかもと あさ} 岡本 麻 (平成25年卒)

4月から泌尿器科に赴任しました。近江八幡市立総合医療センターで初期研修し、京都第一赤十字病院、長浜市立湖北病院で勤めて今に至ります。分かりやすい説明を心がけて精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。



眼科

医員 ^{ながの ひろみ} 長野 広実 (平成30年卒)

京都岡本記念病院、京都府立医科大学附属病院での研修を経て、当院に赴任することとなりました。至らぬ点ばかりで、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、地域の医療に貢献できるよう精一杯精進して参ります。何卒よろしくお願い致します。



歯科・口腔外科

医員 ^{おの りゅうたろう} 小野 龍太郎 (平成26年卒)

歯科医師免許を取得後、大学院(京都府立医科大学)では体内時計に関する基礎研究を行ってきました。口腔内を診るだけでなく、全身の健康維持にアプローチできるような歯科医療を目指しています。「素直な心、謙虚な姿勢、感謝の気持ち」を忘れることなく、患者の皆さま、ひいては地域社会の一助となれるよう精進して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



第4回「南丹カップ」を開催しました

外来副看護師長 かたやま まみ 片山 真美

医療の進歩に伴って、私たち看護師に求められるものは多様化・複雑化しています。専門職として身につけておかなければならない技術や知識も膨大で、常に自己研鑽に努める必要があります。そこで、様々な看護場面を想定し部署毎の看護チームがその課題を攻略していく競技会第4回「南丹カップ」を令和元年11月16日に開催しました。医師や看護学生を含めて76名のスタッフが参加しました。

今回の企画・運営は、副師長会が中心となり、それぞれのパワーあふれる意気込みを感じられる取り組みとなりました。初めてのことであり企画の段階で試行錯誤しましたが、9つの各チャレンジポイントに工夫を凝らし、実務現場さながらの臨場感あふれる状況設定を行い、チャレンジャーにとってもワクワク・ドキドキする場面になりました。

また、チームワークを高め楽しく取り組める「チームビルディング」では「ペーパータワー」に挑戦しました。チームビルディングとは「メンバーが主体的に個性や能力を發揮しながら一丸となってゴールを目指すチームになるための取り組み」です。これには、互いの多様性を認めて協力し合い関係性を築くことが重要となります。各チームで相談・協力し、A4用紙を折ったり棒状にしたりと工夫を凝らし、2m超えのタワーが出来たチームもありました。

南丹カップ終了後の参加者アンケートでは、楽しく取り組むことができ、達成感や満足感を感じる結果が得られ、各人の判断能力やチーム力の向上を実感できたという声が寄せられました。1日を通して大変でしたが、こちよい疲れで、看護って楽しいと思える1日になりましたという声もありました。

信頼される病院としての役割を果たすために、多くの専門職が力を合わせ、患者・家族に寄り添い、質の高い医療・ケアが提供できるように、今後も取り組んでいきたいと思えます。



看護技術



急変対応



医療倫理

南丹カップに参加して

救急・放射線科看護師 さとう さちこ おおしま ひさこ 佐藤 幸子 大島 久子

「よーいスタート」で一斉に始まったのがチームビルディングのペーパータワー。まさかの最下位からの始まりでした。これが逆にチームワークとなり追い上げるしかない頑張ることができました。救急看護に携わることの多い毎日ですが、経験を活かし様々な問題に挑戦できました。解らないことはみんなで考えを出し合い各ブースでは有意義な時間を過ごすことができました。また、院内のマニュアルについて再確認することもでき良い機会になりました。緊張感があったものの楽しく参加することができ、何よりチーム医療の大切さを実感する貴重な体験となりました。

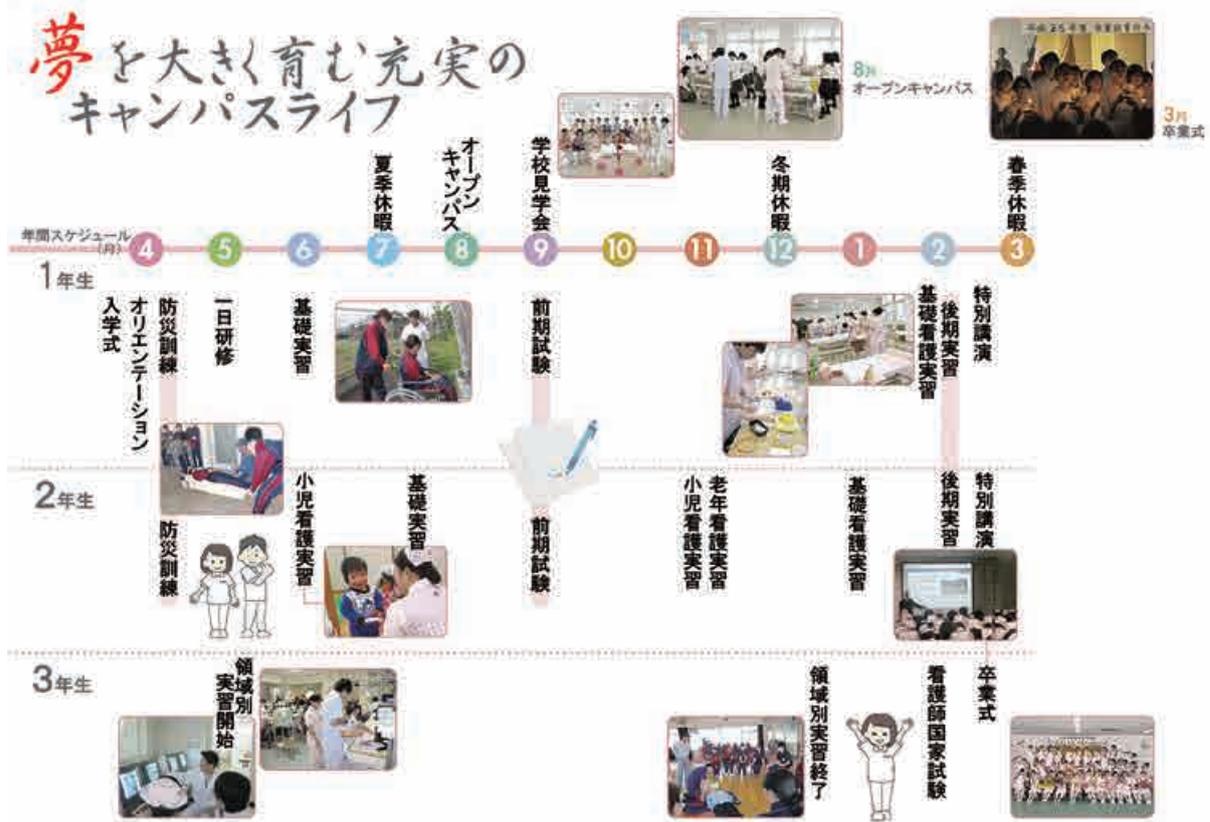


新年度を迎えて

教務主任 あさだ みか 浅田 美佳

昨年度に引き続き1年生からの国家試験対策への取り組みを強化すると共に効果的な学習・技術習得ができるよう臨床実習場からの意見をいただき、授業内容に反映させていきたいと考えております。また2022年度のカリキュラム改正に向けて、これまで築かれてきた本校ならではの良さも引き継ぎながらさらに授業内容や指導内容のレベルアップを目指していきたいと思っております。

教員がワンチームになり知識・技術だけでなく他者に寄り添える心豊かな看護師の基礎となる教育ができるよう取り組んでまいります。今後ともご指導、ご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。



看護師の仕事は診断・治療のアシストだけではなく、患者さんや家族の心のケアをすること。本校では医療の最前線で活躍できるスキルはもちろんのこと、患者さんの立場に立って看護できる人間力の育成にも取り組んでいます。

そのために臨地実習など実践的な学習を積極的に行い、実体験を通して看護師としての基礎を身につけていきます。その3年間の年間スケジュールを学年ごとに表示しています。

看護学校を卒業して

卒業生 あおき つかさ 青木 都加沙

この学校へ入学し、私は多くの人と出会い、多くのことを学び自分の成長につなげることができたのではないかと思います。学校生活では、ドラマや映画で見る医療の世界とは違い、自分の想像していた看護師像とのギャップに困惑し、自分のすべきことは何かを見失ったこともありましたが、しかし、そのような時には先生方が話を聞いて下さり、実習に行くと病院のスタッフの方々からの指導や支え、受け持たせていただいた患者さんへのケアや関わりを通して自分に足りないもの、自分の強みとなる部分など自分を見つめなおす機会となりました。また、1つの夢に向かって、辛さや楽しさ、それぞれの頑張りや共有したクラスの仲間と卒業の日を迎えることができ嬉しく思います。

この学生生活で学んだことを忘れず、常に夢・目標を持ち続けられる1人の社会人、医療従事者として日々成長できる人でいられるよう頑張ります。

卒業生 かたやま るな 片山 瑠奈

3年前に幼少期からの夢であった看護師になるため不安と緊張、期待を胸に入学したことを最近のように覚えています。その日から3年間の学校生活で勉学に励み、卒業の日を迎えました。3年間の学校生活では、楽しいことや嬉しいことだけではなく、時には辛く逃げ出したくなることもありましたが、しかし、いつも近くで助け合える仲間や、どのような時でも親身になって指導して下さる先生方がいたからこそ、辛い時も乗り越えられたと思います。また、受け持たせていただいた患者さんや指導者やスタッフの方々など、多くの方に支えられたことで看護師として必要なスキルを身につけ、学びを深めることで成長に繋げることができました。実習や国試を乗り越え3年間の学生生活を終え卒業できることを嬉しく思います。

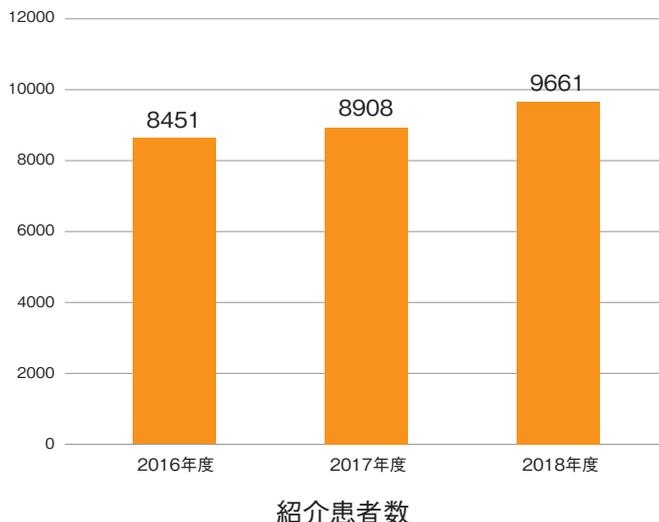
仲間との出会いや学び、感謝の気持ちを忘れず、立派な看護師を目指しこれからも日々努力し続けたいと思います。



Q 紹介患者数で見ると

他の医療機関や施設等からの紹介で当院を受診された患者さんは、2016年度から比較して年々増加しており、2018年度は9,661人が紹介で当院を受診されました。当院では地域医療支援病院として、より専門的な治療・検査や入院治療が必要と判断された患者さんを地域の医療機関からご紹介いただき、受入を行っています。紹介状をお持ちいただくことで、治療経過やお薬情報を迅速に把握でき、スムーズな診療にもつながります。

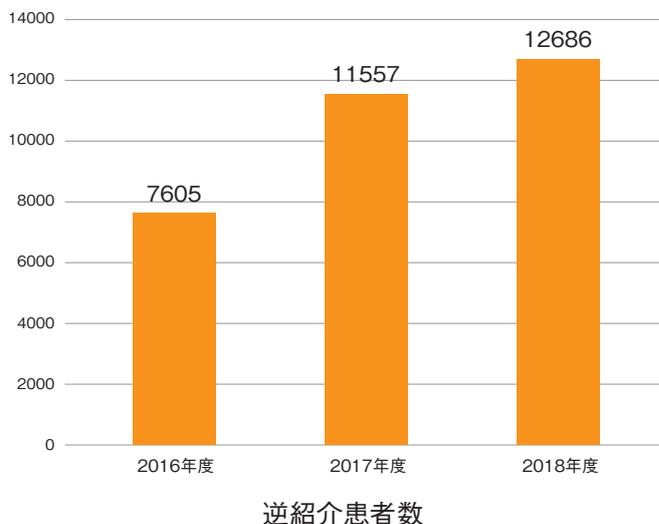
近年、各医療機関の機能や特性を明確化し、地域の医療連携や適切な機能分化を進めることが重要とされています。まずはかかりつけ医に相談いただき、適切な医療機関へ紹介いただくことを推奨しています。



Q 他院への紹介で見ると

2018年度は、1年間で12,686件の診療情報提供書（紹介状）を作成し、他の医療機関へ情報提供を行いました。

患者さんの症状等にあわせて、当院から適切な医療機関へご紹介させていただいています。また当院での急性期治療の後、症状が落ち着いた患者さんを地域の医院や診療所などへ紹介させていただいたり、かかりつけの先生へ治療経過などを報告し、医療機関で連携して患者さんの治療にあたるよう積極的な情報提供に努めています。



当院の地域連携について

地域医療連携室長・総合内科部長 かわの ひでひこ 河野 秀彦

地域医療支援病院を目指し、始まった紹介率、逆紹介率の向上への取り組みでしたが、地域の先生方にご面倒をかけた、患者さんにも選定療養費の負担をかけるのでは、と危惧していました。しかしいざ始めると、地域の先生方からも概ね、連携がスムーズになった、とのご意見を多くいただき、患者さんにも安心感をもっていただいたことを実感しています。今後も地域の皆様により安心・安全な医療が提供できるよう努めていきたいと考えております。



呼吸器外科

Thoracic Surgery

呼吸器外科部長 岩崎 靖



当院の呼吸器の診療は、呼吸器内科の伊達紘二先生、吉田理愛先生、総合内科の河野秀彦先生、小森麻衣先生の4人と呼吸器外科の私を中心に行っています。毎週火曜日にはカンファレンスを行い、呼吸器グループの5人と、通院治療室の片山看護師や時に研修医の先生も一緒に呼吸器の診断や治療に関して、どのように検査を進めていったら良いか、この患者さんにとってどのような治療が最適かなどの方向性を話し合っています。このメンバー間の垣根は低く、いつでも相談しあえるような関係です。

疾病	2017年	2018年	2019年
肺癌	29	34	25
転移性肺腫瘍	11	4	9
縦隔腫瘍	3	2	3
気胸	10	12	15
その他	6	7	3
計	59	59	55

手術件数の推移

呼吸器の手術は胸腔鏡を用いてモニターを見ながら行う胸腔鏡手術が中心で、肺癌の標準的な肺葉切除術を行う場合、当院では約6～8cmの創部1カ所と、2ヶ所の小さい創部から手術を行っています。手術の際は、京都府立医科大学から応援に来ていただいて、院内の外科の若手医師とともに3名で手術を行うことが多いです。直近3年間の手術症例の内訳は、肺癌が約半数で、次いで気胸、転移性肺腫瘍の順となり、年間50～60例となっています。近年、早期の肺癌が見つかる機会が増えてきており、可能なものについてはCTガイド下に病変部にマーキングを行い、X線透視下に肺の楔状切除術を行うような、積極的縮小手術も行っています。

外来は、主に火曜日と木曜日に行っていて、手術前の検査や、手術後の経過観察、化学療法などを行っています。以前から患者さんご家族に対する説明には力を入れており、特に一昨年末ごろから、肺癌を疑う患者さんに対しての説明書に工夫をしています。病変部のCT画像や、その病変の位置を示す画像をつけた説明書を用意して、一般的な検査の流れを説明し、何の目的でどのような検査をするか、どのような考えで治療を選択するかなどについてできるだけ初診時に説明しています。さらに、検査の結果がでたら、その状態ではどの治療が最適と考えられ、その治療を受けて体力的に問題ないか、リスクはどれくらいかということをお患者さんやご家族に理解してもらった上で治療をすすめていきます。最近では、肺癌以外の縦隔腫瘍や気胸についても説明書のテンプレートを作成して、同じように説明に用いています。このような説明をする上での難点は、どうしても時間がかかってしまうことで、外来の途中で説明をするとその後の患者さんの待ち時間が長くなってしまいうため、できるだけ手術の入っていない月曜日や金曜日に説明をするようにしています。これからも患者さんにとって最適な医療を目指していきますので、どうかよろしくお願いたします。

検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師

放射線科・診療放射線技師主任 小田 あり

検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師とは

マンモグラフィ検診の精度を一定に保つために設立された「特定非営利法人日本乳がん検診精度管理中央機構（精中機構）」によって、マンモグラフィの撮影技術および精度管理が十分であると評価された技師に与えられる認定資格です。当院では4名の女性技師が取得し、日々精度の高い撮影ができるよう努めています。マンモグラフィ撮影は私達女性技師が担当しています。



マンモグラフィは、乳癌の早期発見に欠かすことのできない重要な画像検査のひとつです。撮影のときは、乳腺を広げて見やすくするため、撮影台と圧迫板で乳房を強く圧迫する必要があります。緊張や痛みで肩にギュッと力が入ってしまう方が多いので、なるべくリラックスして検査を受けていただけるよう優しく声かけしながら行うようにしています。また、質の高い検査を行うためには、画像評価や機器点検が欠かせません。早期乳癌の「サイン」でもある石灰化や、触ってもわかりにくい「しこり」を正確に写し出すために、専用の模擬試料を撮影して画像評価を行ったり、モニタや撮影機器に異常がないかの確認を毎日行っています。

当院は前述の精中機構によって、装置の管理状況や画質などの様々な基準をすべて満たした「マンモグラフィ検診施設画像認定施設」として2009年から認定を受け、3年ごとの再評価・更新を行い10年を超えました。これからも、乳癌の早期発見・早期治療へ結びつけるチーム医療の一員として、よりよい画像を提供できるよう取り組んでいきます。マンモグラフィに関して何か疑問に思うことがあれば、いつでも気軽にお声をおかけください。

糖尿病教室予定

時間 15:00~16:30 (毎月第3火曜日)
場所 第二病棟5階講堂

- 令和2年5月19日(火)
糖尿病ってどんな病気
おやつのお上手な食べ方ご紹介
 - 令和2年6月16日(火)
理学療法士から運動のお話
運動時の捕食はどうすればいいの？
 - 令和2年7月21日(火)
薬剤師から薬のお話
夏に食べたくなる食事後飲料注意点は？
 - 令和2年8月18日(火)
腎臓内科医師からのお話
おいしく減塩！減塩のコツとポイント
 - 令和2年9月15日(火)
脳神経内科医師からのお話
準備はできていますか？災害時の乗り越え方！
 - 令和2年10月20日(火)
循環器内科医師からのお話
食べ過ぎ防止に対策方法はあるの？
 - 令和2年11月17日(火)
世界糖尿病デーイベント
 - 令和2年12月15日(火)
歯科口腔外科医師からのお話
年末年始食事を楽しみながら過ごす方法は？
おいしく食べる食べ方ってなに？
 - 令和3年1月19日(火)
眼科医師からのお話
外食をする際のコツ伝授します！
 - 令和3年2月16日(火)
皮膚・排泄ケア認定看護師からのお話
野菜をとることで得られる利点！
食物繊維の大切さを教えます。
 - 令和3年3月16日(火)
総合内科医師からのお話
カロリーゼロ、カロリーオフってなに？
- *開催日程及び内容は変更となる場合がございます。予めご了承ください。お申し込みは外来担当医または栄養科までお願いします。
- 糖尿病教室のお問い合わせは栄養科まで
電話：0771-42-2510(代)

病棟で働き始めて1年が経ちました。働き出した当初は学生の頃との違いに戸惑い、初めてのことばかりに不安でいっぱいでしたが、先輩方に優しく丁寧に指導いただき、治療されている患者さんとその家族の想いに寄り添える看護を少しずつ考えられるようになってきたように思います。

病棟では入院された患者さんの退院後の生活を考え、他職種の方と情報共有し支援をしています。患者さんの退院後の生活を予測しながら日々の看護ができるよう、これからも知識・技術習得に日々励んでいきたいです。

現在勤務している病棟は、産婦人科や新生児、未熟児の入院のほかに内科や眼科の入院もあります。最近は婦人科の手術患者さんを担当するようになりました。2年目となり、新生児や未熟児も担当できるように、さらに指導を受けながら看護の幅を広げていきたいです。



当院の救急医療体制

当院では、24時間365日救急の患者さんを受け入れられるよう体制を整備しております。京都府より「救急告示病院」に指定され、二次救急医療機関として救急隊からの要請にも日々対応しております。

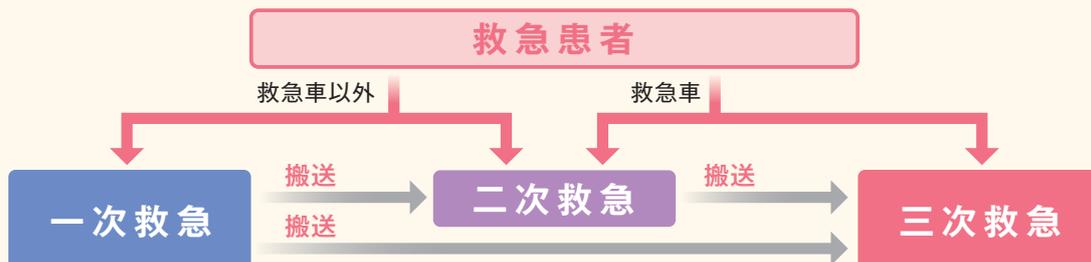
南丹医療圏には三次救急に指定されている病院がありませんが、当院は集中治療室を整備しており、第二病棟屋上のヘリポートではドクターヘリの受け入れも行っております。急性心筋梗塞や冠動脈カテーテル治療、また急性腹膜炎、腸閉塞などの急性腹症に対する緊急消化管内視鏡処置・緊急手術などには24時間対応できる高次救急機能を有し、二・五次救急とも言うべき役割を担っています。

救急外来のお問い合わせ先
0771-42-2510(代)
24時間 365日対応



救急医療の大まかな分類

- 一次救急：比較的軽症（帰宅可能）患者に対する救急医療
- 二次救急：中等症（一般病棟入院）患者に対する救急医療
- 三次救急：重症（集中治療室入院）患者に対する救急医療



かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは・・・

普段の健康状態を把握してしてくれるもっとも身近な「主治医」のことです。

具合が悪くなったり、困ったときにはいちばんに受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



総合受付①窓口

かかりつけ医についてのご相談は

地域医療連携室 電話 0771-42-5061 (直通)

受付時間 平日8:30~17:15

看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

◆看護師寮利用できます。(正職員)

月額4,000円

*水道費込み

*冷暖房・キッチン・バス・トイレ完備

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。



<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/>



緊急入院の患者さんの看護を頑張っています

編集後記

新年度を迎えました。令和2年は初頭から新型コロナウイルス感染症が大きな社会問題となりました。感染の影響で、中国からの材料を調達して生産を行っている日本企業が、供給不足で生産を縮小し、大きな経済損失を来したのも事実です。当院も、第二種感染症指定医療機関として、COVID-19に対応して来ました。人類は世界的感染にも自然災害にも無力であることを改めて感じさせられました。そして地域災害拠点病院としての役割を今後も果たす責務を負っていることを改めて感じた昨今でありました。

広報委員 G.I.

